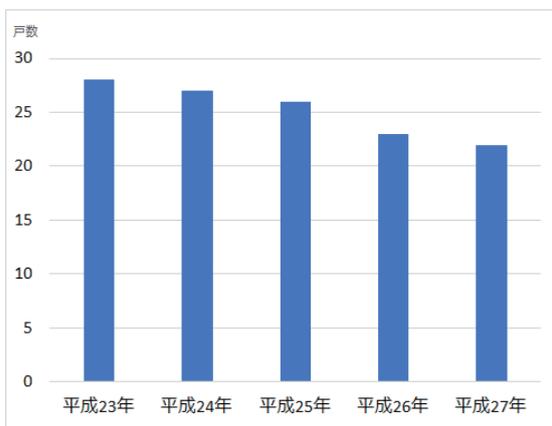


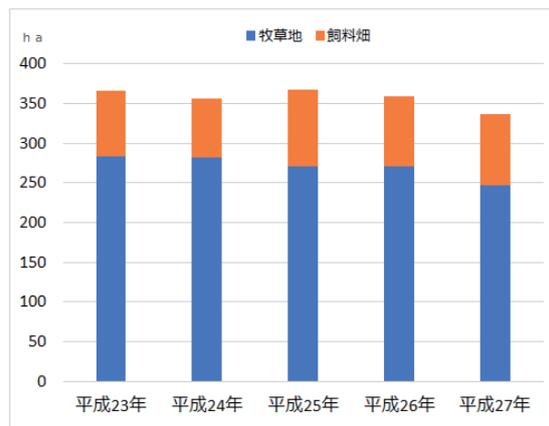
岩中酪滝沢・玉山地区畜産クラスター協議会

I 概要・経緯

岩手中央酪農業協同組合（以下、「岩中酪」という。）のうち滝沢市域の生乳出荷戸数及び飼養頭数は、平成23年28戸、1,355頭から平成27年22戸、1,285頭に減少するが、1戸当たり飼養頭数は10頭増加して58.4頭にまで伸びている（図1）。牧草・飼料畑面積もわずかながら減少しているものの、廃業農家分を吸収することで、1戸当たりの飼料面積は2.1ha増加して15.3haに拡大してきた（図2）。

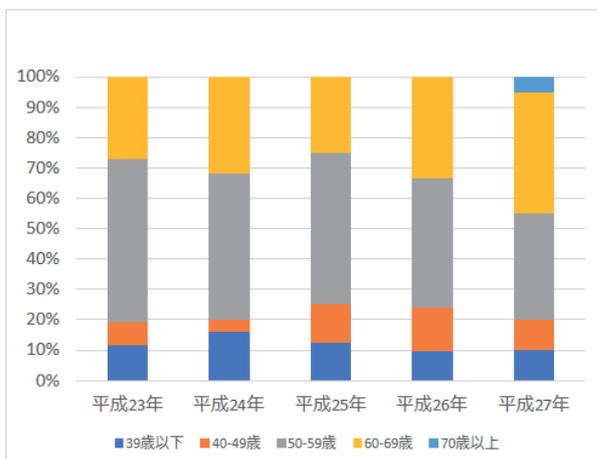


【図1 滝沢市（岩中酪）の酪農家戸数と飼養頭数の変化】



【図2 滝沢市（岩中酪）の自給飼料作付け面積の変化】

経営規模は県平均規模41.3頭/戸を上回っており、中核となる地区であり家族経営の確立を実現しようとしている。しかし、経営者のなかで60歳以上の比率は、26.9%（平成23年）から45.0%（平成27年）に高まり、49歳以下が全体の2割と低く、地域酪農業の先行きに大きな不安を抱えていた（図3）。このことから高齢化が進むなか各戸で労働負担が増してきて、飼育管理方式及び自給飼料生産体系を見直すことが組織的に迫られていたのである。



【図3 滝沢市（岩中酪）の経営者年齢構成の変化】

そこで、畜産クラスター事業の概要を周知、検討するなかで、平成27年6月に岩中酪滝沢・玉山地区畜産クラスター協議会の設立に至った。

## II 取り組みの目標、目的、目指したもの

家族経営では余剰労働力はないことから、生産基盤の維持確保のために高性能作業機を整備し、自給飼料生産・調製作業の外部委託や構成員による共同化を推進し、自給飼料生産面積の拡大を図ることとした。哺育ロボットによる育成作業の共同化、キャリアレール、ミキシングフィーダーなどの施設整備によって高齢経営者に対応した作業の軽減化を同時並行的に行うこととした。近代的な牛舎、作業軽減は外部委託の実施により後継者確保、配偶者確保の一助になることへの期待は大きい。

中心的な経営体は、(有)小西農場、(有)山桜牧場のほか8経営である。小西農場では牛舎新・増築とともに哺育ロボット、キャリアレール、ミキシングフィーダー等の内部設備整備を行う。哺育・育成の預託希望者から子牛を受け入れ希望農家の軽労化



【写真1 整備工事中の搾乳牛舎 (小西農場)】



【写真2 キャリアレール方式による搾乳システム (小西農場)】

に協力していくこととしていて、家族経営間の共同が進展していくことが期待されている。山桜牧場では、3ヶ所に分散している牧場を1ヶ所に集中して、牛舎を新築して作業効率の向上を図りながら規模拡大する。9戸では飼料生産用の播種・追播用機械として不耕起汎用播種機及びグラスシーダーを導入し、強害雑草の防除と単収増による粗飼料自給率の維持を目指している。さらに収穫調製用機械（細断型ベアラ、ラップマシン、ベールグラブ、ジャイロレーキ、ジャイロテッダー、モアコン、ロールベアラ）を導入して適期の収穫調製作業を効率的に行う。2戸でマニュアルプレッダを整備し、資源循環を図ることで環境問題に対応しようとしている。

### Ⅲ 組織・機構

(有)小西農場、(有)山桜牧場ほか8経営の中心的経営体を行政機関として岩手県盛岡広域振興局、滝沢市、盛岡市、指導機関として岩手県盛岡農業改良普及センター、各経営体への飼養管理指導・支援は近在の全酪連北東北事務所がされることになっていて、事務局は岩中酪が担当している。

キーパーソンは施設整備した経営体を中心となって計画実行が進めていくことになるが、距離的に近い経営体が数個固まり（小区画）ながら、全体のクラスター機能を向上していくねらいである。

### Ⅳ 収益性の向上に資する取り組み内容

最終目標は地区の生乳生産の拡大、所得の拡大を目指している。

収穫調製機械の導入により、廃業農家の農地活用と自給飼料の生産拡大を目指し、9戸で17.7haの自給飼料作付面積を拡大する。飼料品質の改善に向けて、細断ベールと未切断ベールの嗜好性、品質比較を行い研修会の場で検討している。飼料生産作業の受・委託と共同作業の推進を行うこととしている。

2戸で73頭を増頭し、547.5tの生乳生産増で57,488千円の販売高の拡大を目指している。全酪連北東北事務所が盛岡農業改良普及センターと連携して飼養管理指導に当たることとしているが、個体乳量増は必須の課題であり、TMR設備の活用をあげている。

### Ⅴ 支援体制

畜産クラスター協議会の検討会を四半期ごとに開催し、目標達成に向けて積極的にやりたいとしている。構成員である盛岡農業改良普及センターによる技術供与、支援による良質な自給飼料生産、哺育育成、生乳生産の拡大等に関与していく。全酪連北東北事務所は、全国の優良事例や情報等を提供する。

### Ⅵ 情報交流

事務局である岩中酪は、酪農協として経営・技術情報は不断に提供している。さらに3つの畜産クラスター協議会事務局を担っているため、情報交流ができるので積極的に行いたい。

### Ⅶ 地域への波及効果

中心的経営体の規模拡大実施農家は地区のリーダー的酪農家であり、施設整備等による経営改善は地域酪農家の新規投資意欲や生乳生産量の拡大、新規就農など大きな波及効果が出てくると考えている。

## VIII まとめ

整備事業が現在進行中であり、整備完了後がより重要であると認識されていて効果の検証に向けた準備が行われている。滝沢・玉山地区の酪農家は、戦後の開拓時代の苦心を乗り越えて経営確立を成し遂げて今日に至っている。中心的経営体が10戸と多くかつ多様であるものの、地域には助け合い、共同の素地があり、当初の目標達成に向けてクラスター力が発揮されるものと思われた。

(吉田 宣夫)